

取組・活動名 「支え合って生きるために大切なことを考えよう」 ～難聴理解授業を通して～

1 取組・活動のねらい

耳の聞こえについて理解し、難聴体験を通して、聞こえにくい人と話すときに大切なことを考える。

2 教育課程上の位置づけ

総合的な学習の時間・2時間

3 実施学年・クラス・人数

5年1組 29名
なかよし学級 1名 計30名

4 指導者（教諭・外部講師等）

担任・特別支援学級担任

5 取組・活動の内容

- ① 「聞こえ」について、耳の構造と働き・音の聞こえる仕組みについて知る。
＜聞こえの程度＞ ・全く聞こえない
・少し聞こえるけど言葉がはっきりわからない
・静かなところでは聞こえるが、騒がしいところでは聞こえない
＜耳のしくみとはたらき＞
・音の高さと大きさ *聴力図



- ② 難聴者の聞こえ方の疑似体験をする。
 - ・伝音性難聴（音が小さく聞こえる）
 - ・感音性難聴（音が歪んで聞こえる。音としては分かるが、言葉としてははっきり聞き取れない）

- ③ 聞こえなくて困ることについて知る。

○同じ口の形の音（母音が同じ言葉）は、聞き間違ふことがある。

- ④ 難聴体験をする。

- ・イヤードیفエンダーを付けて、隣の人と話す。
- ・単語の聞き取り検査をして、聞き取りにくさを体験する。



- ⑤ 聞こえを助ける機械について知る。

・「補聴器」や「人工内耳」は、余計な音まで大きくしてしまうので、何でも聞こえるわけではない。

- ⑥ 聞こえにくい人と話すとき、どんなことに気を付けたらよいか考える。

- ・自然な話し方で、ゆっくり、はっきり話す。・短い文で話す。
- ・身振りや手振りで表情豊かに話す。
- ・手がかりになるものやキーワードを提示しながら話す。

6 児童の感想

・「イヤードیفエンダーを付けたとき、静かだと聞こえやすいけど、物音などがあると聞き取りづらい」「母音が同じときや周りの音が大きいときに聞こえづらい」「相手の気持ちを考えて、ゆっくりはっきり、気をつけて話したい」

7 成果

講話や体験を通して、児童たちは「聞こえ」についての理解を深めることができ、充実した学びの場となった。PPW資料の提示や難聴疑似体験を取り入れることで、児童自身が自ら考え、主体的に学ぶことのできる貴重な機会となった。